KINGCA WEEK 2022、Master Class に参加して

名古屋大学大学院医学系研究科　消化器外科学
中西香企

この度、日本胃癌学会の海外学会参加補助制度により、2022 年 8 月 29 日から 31 日まで Ajou（亜洲）大学病院において Master Class（施設見学)、9 月 1 日から 3 日まで KINGCA WEEK 2022 に参加させていただきました。

私が韓国を訪問した当時、COVID-19 の 1 日新規感染者数は日本が世界 1 位、韓国が世界 2 位の状況でした。日本出国 48 時間以内に PCR 検査陰性証明なければ出国できず、韓国入国直後の PCR 検査陰性証明がなければ病院見学ができず、もし陽性となった場合 1 週間隔離されるという、海外渡航者にとってはとても厳しい状況下での訪問でした。無症状ではありましたが、PCR 検査結果が出るまでドキドキしたことが思い出されます。空港は閑散としておりましたが、いざ韓国市街地に出てみると皆マスクはしているもの行動制限がされている様子はなく、屋台が出ており野外ライブがなされていました。

まず、Master Class について報告させていただきます。Ajou 大学はソウルの 30 キロ南にある、水原(スウォン)にある私立大学で、病院は大学キャンパスと同じ敷地にあります。韓国でも有数の外傷センターを有しており、2 台のドクターヘリがひっきりなしに離着陸していました（写真１)。Sang-Uk Han 教授が率いる胃外科チームはスタッフ 4 人で年間 350 件以上の胃癌手術と 200 件程度の鼠径ヘルニアを行うハイボリュームセンターです。そして、Han 教授は KINGCA WEEK 2022 の会頭であり、水原がその会場でした。Han 教授は病院長もされており非常に多忙であるにもかかわらず、見学初日は病院長室にお招きいただき、韓国での低侵襲手術の実情についてお話していただけました。その後、手術室に移動し Hoon Hur 教授の手術を見学させていただきました。午前中に腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術と腹腔鏡下幽門側胃切除術、午後は腹腔鏡下胃局所切除術と腹腔鏡下幽門側胃切除術と１人で４件の手術をされており、手術チーム全体が手術を理解し、麻酔導入～手術～退室まで一切の無駄がありませんでした。胃切除についてはスコピストのレジデントと２人で手術を行っており、定型化された術野展開、非常に丁寧な手術であるにもかかわらず２時間台という手術時間で終わっていたこと感銘を受けました。２日目は２件の腹腔鏡下幽門側胃切除術を見せていただき、そのうち１件は Sang-Yang Son 教授の単孔式手術でした。私自身単孔式手術をやったことがなく、ポート配置など初歩的なことから教えていただき、非常に勉強になりました。また、手術後には Hur 教授の実験ラボも見学させていただき、臨床と基礎研究の二刀流を実現されていることに驚きました。手術のデータベースも少し見せていただきましたが、術後成績は素晴らしいものでした。最終日は名古屋大学から KINGCA WEEK 2022 に参加予定だった小寺泰弘先生、神田光

郎先生も合流し、両大学での研究内容を紹介する「Gastric Cancer Seminar for Collaboration of Ajou-Nagoya University」が行われ、私も我々の施設で行っている conversion surgery について発表させていただきました。当日は Ajou 大学の学生、レジデント、CRC さんも参加されて、活発な意見交換が行われました（写真２）。

（写真１）Ajou 大学病院とヘリポート

（写真２）Gastric Cancer Seminar for Collaboration of Ajou-Nagoya University

続いて KINGCA WEEK 2022 について報告させていただきます。Ajou 大学より 2km ほど離れた水原コンベンションセンターで行われました。中国からは出入国制限が厳しいせいか参加者は少なく、韓国に次いでモンゴルからの参加者が多い印象でした。セッションはすべて英語で行われており、プレナリーセッションをはじめ、外科手術に関するものを中心に聴講しました。学会初日（9 月 1 日）夜には Master Class の修了式が行われ、日本

から参加された６名も各々スピーチを行い、その後 Master Class 修了証をいただきました（写真３）。私が発表させて頂いた私の演題は“Combined measurements of D-AMYs on the day of surgery and the next day enhanced early prediction of the postoperative peripancreatic inflammatory fluid collection after gastrectomy”、すなわちドレーンアミラーゼ測定による腹腔内感染症早期発見についてです。韓国ではあまりなじみがない様子でしたが、Best Poster Presentation Award をいただきました（写真４）。

（写真 3）Master Class の修了式

（写真４）Best Poster Presentation Award 授賞式

この度，日本胃癌学会の海外学会参加補助制度を利用して、KINGCA WEEK 2022 そして Master Class に参加させて頂きました。韓国胃癌学会主催ではあるもののすべて英語を行われている国際学会で、日本の医療と他国との違いを認識し、それについてディスカッションできる重要な機会であると思いました。また、国際的な人脈の構築にもつながると思います。今後、医療の世界もグローバル化がより一層進んでいくことが予測され、われわれもそれに対応していくことが必須となるでしょう。それをこういった形でサポートしてくださる日本胃癌学会のあり方はとても素晴らしいものであり、そのような環境で臨

床、研究ができるわれわれは恵まれていると感じました。今回の経験は私の医師人生の財産となり、これからの診療への新たなモチベーションを高める良い機会となりました。

最後になりましたが、このような機会を与えていただきました日本胃癌学会の掛地吉弘理事長、国際委員会の竹内裕也委員長をはじめとした委員の皆様、また COVID-19 感染蔓延の影響でかなりの制約がある状況であったにもかかわらず、今回の施設見学を受け入れてくださいました Ajou 大学病院の職員の皆様、施設見学中なにかとお世話いただいた Jeong Ho Song 先生に感謝申し上げます。今後も日本胃癌学会の海外学会参加補助制度が継続することを期待します。